

2019年度

## 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1473700399	事業の開始年月日	平成12年12月1日
		指定年月日	平成26年12月1日
法人名	社会福祉法人 みやび会		
事業所名	グループホームやすらぎの郷		
所在地	( 227-0054 )		
	横浜市青葉区しらとり台3-13		
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	通い定員	名
		宿泊定員	名
		定員計	9名
		ユニット数	1ユニット
自己評価作成日	令和2年2月27日	評価結果	
		市町村受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	<a href="http://www.rakuraku.or.jp/kaigonavi/">http://www.rakuraku.or.jp/kaigonavi/</a>
----------	---

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当法人グループ内には、特養・老健・療養型病院・サービス付き高齢者住宅・訪問看護・訪問介護等の事業を行っており、常に連携が図れるようになっている。

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社フィールズ		
所在地	251-0024 神奈川県藤沢市鵠沼橋1-2-7 藤沢トーセイビル3階		
訪問調査日	令和2年6月29日	評価機関 評価決定日	令和2年10月27日

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

事業所は、東急田園都市線「青葉台」駅から徒歩10分、または、横浜市営バス「つつじが丘」バス停下車徒歩2～3分の、利便性が良く、静かな住宅地にあります。社会福祉法人が運営している開設して19年の実績のある1ユニットの平屋建てです。設置法人のグループは、東京都や神奈川県内に特別養護老人ホーム、介護老人保健施設、療養型病院、訪問看護事業所、訪問介護事業所などを運営し、それぞれと密な連携を図っています。

<優れている点>

入居者の支援をパーソンセンタードケアを基本にして行っています。職員は、入居者の生活歴、習慣、趣味や性格などを把握し、入居者の自己選択や自己決定を支援の基本としています。入居者の日々の会話や表情、態度の変化などから思いや意向を把握するように努め、入居者の出来る事ややりたい事などに気付いた場合には、入居者本人の立場になって職員間で話し合い、業務日誌や申し送りノートに記録し、共有するようにしています。入居者の出来ることを職員は見守り、本人の選択、決定が出来るような支援を心掛けています。

<工夫点>

入浴支援は、普段夕方16時くらいに行っています。入居者などからの要望があれば夜間入浴も行っています。入居者の要望を聞きながら、入浴温度を変えたり、入浴時間も変えたり、その都度、入居者とコミュニケーションを取りながら入浴剤や音楽を流したりして楽しんでもらうように工夫しています。

### 【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1～14	1～7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15～22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23～35	9～13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36～55	14～20
V アウトカム項目	56～68	

事業所名	グループホームやすらぎの郷
ユニット名	1ユニット

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="radio"/>	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/>	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="radio"/>	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	概ね共有されていると思う。	理念をわかりやすく表現した「心に問いかけよう」を事務所に掲示しています。入居者の自己決定や自己選択を介護の基本として考え、管理者と職員と話し合っています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	町内会の一員として参加している。	事業所を開設して19年になります。開設当初から町内会に加入し、回覧板が回ってきます。町内のごみ集積所の掃除当番や、年末助け合い募金に協力しています。中学生の福祉体験を受入れ、毎月華道教室のボランティアが来訪しています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	余り地域貢献は行われていないと思われる。	/	/
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	特別な取組みは行われていない現状がある。	運営推進会議については、今年度は開催出来ていません。	運営推進会議の定期的な開催に向けての取組みが期待されます。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	昔に比べては少なくなってきた気がする。	管理者は、行政の担当者に困難事例の相談をしたり、助言などを受けています。必要に応じて連携を取り合っています。担当者が入居者の日常の様子や要望などを直接確認する定期的な訪問の受入れを行い、協力関係を築いています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束はしない支援の実践に取り組んでいる。	玄関に「身体拘束廃止及び虐待に向けた方針」を掲示しています。スピーチロックなどの見えない拘束がもたらす弊害などについて申し送りノートに記載する事や職員間の日々の申し送りの際に話し合う事を行っています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	虐待防止の研修等を通して理解を深めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	権利擁護のOJTなどを通して確認を行っている。現在1名に後見人が付いている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	事前相談等において説明や確認を行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	本人の生活上での希望や困りごとなどを確認するようにしている。また、ご家族様においても要望等の確認は行っている。	比較的近隣の家族が多く、家族によって週1回や月に1回など定期的に面会に来訪し、職員とも話しています。管理者は、面会時やメール、電話、SNSなどで家族と直接連絡を取り合い、家族と意見交換などを行っています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	職場の意見を定期的に受け、必要に応じての支援を実施している。	職員の新人教育として、入社3ヶ月間管理者との交換日記を行っています。管理者は、3ヶ月～4ヶ月に1度、職員と面談の機会を設け、運営や入居者の支援についてなど感じたことや職員からの意見、提案などについて意見交換をしています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	人間的な問題等もあり、必ずしも最適な環境になっているかは疑問もある。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	個々の能力のスキルを高める配慮はしている。定期的なOJTなどでの勉強会等は実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	現状は業務が優先的になりがちになってきており、以前よりは少なくなっている。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居者への配慮を行うと共に、安心とやすらぎのある生活作りに活かすための意見聴取は行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	適時連絡等をする中で、要望などはお聞きしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	入居前の生活環境の情報を踏まえて、サービス内容についても十分に考慮し、支援に繋げている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	職員との信頼関係の構築に努め、本人の良き理解者であるよう努力している。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	随時必要な情報はお伝えしながら、関係性を大切にしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	極力ホームに足を運んで頂けるように声掛けなどは行っているが、現状は難しいかと思われる。	半年に一度、遠方の知人が面会に来ています。お盆や正月に自宅へ帰宅し、外泊する入居者がいます。入居前からの趣味の読書を続けている入居者もいます。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	共同生活上、他の入居者との関係が築けるように配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	今も以前の入居者のご家族とは連絡など行っている。		

Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人本位（パーソンセンタードケア）を基本として考えている。	職員は、入居者の日々の会話や表情の変化などから入居者の思いや意向を把握するように努めています。入居者の出来る事ややりたい事などに気付いた場合には、入居者本人の立場になって職員間で話し合い、業務日誌や申し送りノートに記録し、共有しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	必要に応じた情報を頂きながら、以前と変わる生活の継続ができるように情報把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	認知症の症状の把握及び健康状態にも配慮し、無理ない範囲での生活が営まれるように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	ご家族及び入居者の希望も考慮しながらカンファレンス等を通して反映し、作成に活かしている。	ケアプラン作成担当者は、モニタリングを行い、家族の意見を聞き、職員会議で協議して、ケアプランを作成しています。ケアプランは、定期的に4ヶ月ごとに見直しを行っています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	情報共有を行いながら現状に即したケアの内容等の検討を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	現在の状態も考慮し、サービス内容を考えている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	地域資源の活用は本人の生活の質を高める上で重要と考えている。しかし、現実には本来の活用の範囲までは難しい状況である。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	24時間体制での支援の取り組みができています。又、必要に応じての関係機関との連携も構築されている。	月に2度の協力医療機関による往診のほか、訪問看護や訪問歯科が、週に一度来ています。外部医療機関への通院の際は必要に応じて職員が同行し、入居者の状況を直接医師に伝えるなどし、診療結果は業務日誌に記載して職員間で共有しています。	



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	周囲1回の定期訪問看護は勿論、必要に応じて24時間体制での支援もできている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	常に医療機関等との情報交換を行うことで、利用者の負担軽減を含めた話し合いは行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	基本的に看取りを行うようにはしている。その為の医師、看護体制（24時間）及び状況に応じた入院体制も確保されている。	入居時に家族と本人に看取りにおける事業所の方針を丁寧に説明するとともに家族及び本人の意向を確認しています。その人らしい日常生活を尊重して支援にあたることを職員間で共通認識としており、医師と連携して看取りに移行するようにしています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	定期的に緊急時の対応についての話し合いは行われている。医師及び看護師からの指導を含めて。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	災害時の対応等についても定期的に話し合いはされている。必要に応じてはグループ内からの支援も確立されている。	入居者、地域住民も参加して災害対応の訓練を行っています。訓練を通して職員間での気づきを意見交換しながら夜間帯の災害対応策や備蓄品の管理方法などについて定期的に職員会議で話し合っています。	災害時用備蓄品のより適切な管理が行えるよう、在庫・消費期限など一覧表での管理が期待されます。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	介護基本ともいえる尊厳の保持を優先的に考え、プライバシーの保護に配慮している。	日々の支援の中で否定的な言葉掛けを行わないことなど、職員としての心得を事務所に掲示して確認し合い、一人ひとりの気持ちに寄り添った入居者本位の支援の実践に努めています。個人情報記載された記録類は所定の場所に保管し適切に管理を行っています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	自己選択、自己決定についても介護の基本的な本質と考え、配慮している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	日々のご本人の体調等を考慮しながら支援に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	整容は大切支援の一つとして支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	入居者の好みを考え、また、嚥下状態も踏まえた準備等を行っている。	入居者の希望を組み入れて、栄養面に配慮した献立作りを工夫しています。季節を感じながら食事を楽しめるよう、そうめんパーティーなどのイベントを行っています。職員は、入居者が主体的にテーブル拭きや食器洗いなどを行えるよう支援しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	バランスや水分摂取も見ながら支援委繋げている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	基本は毎食後に口腔ケア支援は実施している。義歯の清潔保持についても実施している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	トイレにての排泄を基本と考えている。排泄状況を確認しながらの支援となっている。	職員は、排泄表を記録して個々の排泄リズムの把握に努めています。入居者本人の気持ちを大切にしながら、耳元でそっと囁いたり、ジェスチャーを用いてトイレ誘導を行っています。根気よく支援を行い、オムツからトイレへ移行できた事例があります。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	排便状況についても常に確認を行いながら、必要に応じて医師の指示を仰ぎ、無理のない排便が行えるように支援している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	入浴はひとり一人の対応となっている。ただし、本人の状態によって無理のない範囲での実施となっている。	入浴時間や湯船の温度設定など、個々の希望を聞きながら、入浴支援を行っています。好みの入浴剤を使用したり、音楽を流したりして、ゆったりとくつろげる雰囲気づくりを工夫しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	状態に応じての休息や睡眠時間の確保が十分に保たれるよう配慮している。起床についても同様となっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	服薬支援は職員間で確認を行いながら実施している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	出来る範囲での役割や楽しみ事が持てるように考えてはいる。但し、以前のような外出機会は減ってきている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	現在は自身が直接外出を行う機会もなくなってきた。	職員は、新しい生活習慣に留意しながら、散歩や近隣のスーパーマーケットへの買い物などの外出支援を行っています。家族に協力してもらい、敬老の日や母の日などに外出を楽しめるよう支援しています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	自身が直接お金を所持するケースはない。また、使用に関しては家族との外出時において支援をお願いしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	必要に応じて家族へ電話などの支援は行っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ハード面での改善等が難しい状況にある。ソフト面での支援は考えていくように努めている。	共有スペースには各箇所に消毒液を常備して清掃を行い、清潔な状態が保たれています。リビングには温湿度計を設置し、窓の開閉をこまめに行うなどしています。動物好きの人が多くいるので、犬や猫の絵やカレンダーを掲示し家庭的な雰囲気づくりを工夫しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	現実的にスペースが無い状況ではあるが工夫するよう努めている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居時に必要最小限の範囲での持込み等は行って頂いている。ただ、生活保護者の方々には当方の物品等をご使用頂いている。	職員は、日々の居室点検の中で清掃や換気を適切に行っています。安全面に留意して家具などの設置を行い、入居者が安心して過ごせるように配慮しています。好みのテレビを鑑賞したり、読書をしたりするなど思い思いに過ごしています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	難しいことではあるが、個々の残された能力に応じ、自身で行っていただいている。現状は段々厳しくなってきた。		